

## 平成 28 年第 2 回能勢町総合教育会議会議録

### 1. 開会日時及び場所

開会：平成 28 年 8 月 4 日（木）午後 3 時 00 分

場所：能勢町役場南館教育委員会室

### 2. 出席者

町長 山口 禎 教育長 森田 雅彦 教育長職務代理者 市村 依子

委員 谷 安生 委員 上西 恵 委員 小谷 義隆

### 3. 事務局職員出席者

総務部長 中島 吉章 課長 清水 鉄也、参事 原田 和昭

### 4. その他出席職員

教育委員会次長 瀬川 寛、学校教育課長 辻 新造

### 5. 議事の次第

山口町長

(挨拶)

ただいまより、平成 28 年第 2 回能勢町総合教育会議を開催する。

議事に入る前に能勢町総合教育会議運営要綱第 5 条第 1 項の議事録の署名委員を指名する。署名委員に谷委員と上西委員を指名する。

それでは、議事に入る。「ささゆり学園の一学期を終えて現状と課題」のいじめ・不登校について、教育委員会事務局より説明を求める。

瀬川次長

まず、能勢ささゆり学園のいじめ・不登校の状況ですが、不登校の定義については、月 5 日以上、又は学期 10 日以上欠席した児童・生徒を不登校としてカウントすることとしており、小学校では宗教上の関係から自宅学習を行っている児童以外で、特に問題となる不登校の実績はなかった。

中学校は、1 年生で 1 人、2 年生で 6 人、3 年生で 7 人であった。うち、2 年生の 1 人は小学校と同様で宗教上の理由による不登校が含まれている。

それらの事情を除いて 1 ヶ月ほぼ全欠という生徒が 2 人いるが、いずれも 3 年生で、うち 1 人は他市からの転入生で、以前の学校でも不登校であった生徒である。1 学期中 1 日も学校に来ていない生徒はなく、いろんな課題を抱える家庭や生徒に寄り添いながら学校も努力をしている現状である。

夏休みが終わった2学期にどのような変化が現れるか、気を付けていかねばならないと考える。

次にいじめの認知件数について、小学校は16件であった。いじめレベルを1から4まで設定し、そのうちいじめレベル1に該当するものが15件、レベル2が1件という状況で、大きな問題となるようないじめは発生していない。学年別では、1年生2件、2年生1件、3年生1件、4年生5件、5年生3件、6年生4件であった。学校では「ささゆりトラストプログラム」、いわゆる学校いじめ防止基本方針に基づき、極めて初期の段階のものであっても件数として掌握し、対応することとしていることから、件数としては16件となっている。これらについては、いずれも現在は事案としては解消している。

中学校については、1年生1件、3年生1件の合計2件であった。いずれもレベル1で、現在は解消している状況である。

#### 【いじめ認識レベル】

レベル0・・・いじめではない

レベル1・・・いじめにつながる行為（教職員の気づき、発見）

レベル2・・・いじめ発覚

レベル3・・・絶対避けるべき事態（重大事態）のいじめ

レベル4・・・犯罪行為として対応

問題行動及び関係機関への通告状況については、家庭内暴力及びネグレクトによる子ども家庭センターへの通告件数は2件であった。このうち1件については、先述の不登校の件数とも重複する生徒である。関係機関との連携のもと粘り強く解決にあたっていきたいと考える。

山口町長

この件について、何か意見・質問等はないか。

小谷委員

通学形態など学校が一つになったことによる環境の変化が、いじめへと結びついた事案はあるか。

瀬川次長

小学校は、通学形態や学校が再編されたことが原因でいじめと結びついた事案はないと把握している。中学校については、1年生の事案で、旧校は少人数であったが新学校で多人数となり、旧校の同級生との付き合い方が多人数の中では通らず、新たな関係が築けないことから問題行動へと繋がっているケースはある。

小谷委員	新学校となった良い事例として、小中学生が一緒にバス通学をしているが、中学生が小学生のもめ事を止めに入ったことがあると聞き、このように上級生が下級生を見守ることもいじめの抑止力になるのではないか。
山口町長	小学校のいじめ認知レベル1の事例について説明を求める。
辻課長	新学校になり、からかい・ひやかしの限界領域を子ども同士でまだ掴めきれていないこともあり、からかい・ひやかしの事例はクラス内で数件あるが、いずれも事後の状況はほぼ解消している。また、文部科学省の通知により初期段階のいじめや、解消したからといっていじめが発生しなかったことになるものではないことから、ごく短期間のうちに解消したいじめについても遺漏なく認知件数に計上することとされたため、いじめを見逃さないように教員へ指導している。
山口町長	小学校の16件全ての事案に担任は指導に入っているということだが、認知件数は昨年度と比較してどうか。
辻課長	先述の文部科学省の通知により、いじめの認定が変わったことから増えている。月ごとに見ると6月が最も多い。これは梅雨時であるため外で遊べないストレスが原因の一つであると考えられる。
市村教育長職務代理者	「目に見えるいじめ」と「目に見えにくいいじめ」があり、携帯やLINE等のSNSに絡んだいじめについてはどうか。
辻課長	今年度はそのような報告は受けていない。
市村教育長職務代理者	今後、そのような「目に見えにくいいじめ」が特に中学生の間で増えていくのではないかと考えられる。
山口町長	携帯は持込禁止だが中学生の携帯保持率は高いか。
市村教育長職務代理者	保持率は高く、年々高くなっている。
上西委員	今は携帯を持っていなくても、自宅にタブレットがあればLINEが出来る環境である。

森田教育長	<p>そのような「目にみえにくいじめ」も含めて、学校生活におけるアンケート調査を年 2 回実施することになっているが、1 学期は実施して結果はでているか。</p>
辻課長	<p>実施はしているが集計段階である。</p>
山口町長	<p>子ども家庭センターへの通告 2 件についてはどうか。解決へ向かっているか。</p>
辻課長	<p>継続中でその内 1 件について、昨年保護者への対応に精神科医を交えて行ったが、教員が疲弊しないよう努め解決へ向かっていきたいと考える。</p>
山口町長	<p>他に意見・質問等はないか。</p>
谷委員	<p>4 月から子どもだけでなく、保護者も期待や不安はあったと思うが、一学期を過ごし、夏休みは子どもたちにとって自分を振り返る期間である。</p> <p>夏休み明けは、特に子どもの様子を見逃さないように注意しなくてはいけない。</p>
山口町長	<p>他に意見・質問はないか。</p> <p>それでは、次の「全国学力学習状況調査の結果」について、教育委員会事務局より説明を求める。</p>
辻課長	<p>全国学力学習状況調査は、平成 28 年 4 月 19 日に小学校 6 年生と中学校 3 年生を対象に実施し、小学校は国語・算数、中学校は国語・数学の 2 教科で、出題内容は、「知識」と「活用」の 2 種類である。</p> <p>「知識」(小学国語 A・中学国語 A・算数 A・数学 A) は基礎問題で、「活用」(小学国語 B・中学国語 B・算数 B・数学 B) は思考力を必要とする問題が出題されている。正式な結果についてはまだ出ていないため、各小中学校で自己分析した結果によるもので説明する。</p> <p>小学校については、国語 A、算数 A とともに全体的に正答率が高く、基礎的な力がついていると考えられる。例えば、国語 A では漢字の読み書きや収集した情報を関係づけながら話し合うことが出来るかをみる問題について正答率が高かった。</p> <p>また、算数 A では基礎的な計算問題が大変良く出来ていた。しかし、国語 B・算数 B の思考力の問題については基礎力と応用で学力の差が出てい</p>

た。考察すると、国語 B については、問題自体の意味を読み取れていなかったり、問題が提示する条件を守られていない例があった。これらの問題に着目すると、語彙力や書く力、読み解く力を身に付けることが今後の課題である。

算数 B については、言葉と式を文字化し解答することが出来ていない印象を受ける。図と問題が情報過多であると、必要な情報を見分け、正確に解答を導くことが出来ないことが考えられる。また、与えられた数値や立式、題意を捉えることが出来ず、求められている解答と乖離した解答が多く見られた。今後必要な授業改善としては、情報を処理する力を鍛える授業形態や習熟度を積み重ねていかねばならないと考える。

中学校については、各教科の教員とスクール・エンパワーメント支援員（大阪府教育委員会が行っているスクールエンパワーメント推進事業の派遣教員）で採点・分析した。

国語 A は正答率が高く、基礎問題は良く解答できていたが、国語 B は本や文書などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く力が弱いと分析している。

数学 A・B については、度数分布表で見ると、数学 A では 50 点台が最も高く、数学 B では 20 点台、50 点台、70 点台で高くなっており、3 つの“こぶ”のようなグラフであった。分数と少数の乗法の計算の正答率が 6 割、自然数の意味を理解しているかの問題については正答率が 3 割と低く、数学については A・B とともに課題が残る結果となった。

山口町長

この件について何か意見・質問はないか。

市村教育長職務代理者

正式な結果を待たず独自に採点・自己分析をしているのは、児童生徒のつまずきを速やかに把握することで、日々の学習指導の改善・充実に生かすということか。

辻課長

この結果については、2 学期以降に学習指導等で活用していきたいと考える。全教員で採点することは、秋田県にある小学校で実際行われており、数年前より本町でも導入し採点を行っているが、各教科の教員だけでなく全教員が採点に関わり、日々の授業の弱点を発見し向上できるようにするかが課題である。

市村教育長職務代理者

全国学力学習状況調査の対象学年は小学 6 年生と中学 3 年生であるが、9 年間で繋ぐ検証軸として町独自の学力テスト(小 1～中 2)を受けることや、

	次年度に対象学年となる子どもたちのためにも継続して取り組んでいくことが大事である。
辻課長	学年で学力の差がでないように、町独自の学力テストなどで継続的な変化を見ていきたいと考える。
市村教育長職務代理者	求められる学力が変化していくので、子どもや教員がその変化に対応していかなければならない。
森田教育長	9年間丁寧に繋いで、子ども一人ひとりの課題を克服し積み重ねていくことが大事である。全国学力学習状況調査については、毎年、対象児童・生徒が変わっていくが、町独自の学力テストは対象が変わらないので、町独自の学力テストを軸にして取り組んでいきたいと考える。
山口町長	町独自の学力テストは、業者テストか。
辻課長	業者テストを使用している。
山口町長	全国学力学習状況調査で、中学校の数学の結果について、度数分布表の3つの“こぶ”(20点台、50点台、70点台の山)の原因はなにか。
辻課長	解らなければ問題を解くことをあきらめる傾向がある。数学嫌いを減らすために、その都度対応して、きめ細かいサポートが必要となる。
山口町長	昨年の結果と比較してどうか。
辻課長	数学については、昨年度より若干厳しい結果であった。
上西委員	中学3年生について、夏休みを利用して勉強会などは実施されているか。
辻課長	朝8時に登校し、クラブ、水泳補習、学習補習を並行して行っている。
山口町長	他に意見・質問はないか。
谷委員	昨年度、家庭学習が課題になっていたが、今年度の生活調査で課題が分かるような集計はでているか。

辻課長	まだ、集計は出ていないが、結果を昨年度と照合し、数値を取りながら家庭学習がどれだけ伸びているか、アフタースクールとの成果も含めて見ていきたいと考える。
山口町長	全国学力学習状況調査の分析と同時期に、生活調査の分析はしていないのか。
辻課長	全国学力学習状況調査は、実施時期から数か月後に結果が出ることもあり、同時期に分析し課題を導き出すことが難しいが、「社会性尺度調査」という大阪府が実施している調査があり、大阪府の全市町村対象で学期ごとに2回実施しているもので、その結果が、先日出たところである。詳細については確認中である。
瀬川次長	中学生の結果を見ると、どの学年についてもグラフの形が一緒で、学年差はあまりなかった。
山口町長	グラフのへこみは、何を意味しているのか。
瀬川次長	へこみは、「今の自分が好きか」という問いに対して、好きと答えた人数が少ない結果で、自尊感情が低いということである。従来からその特徴はあった。
山口町長	能勢町だけでなく、日本は世界的にみて自尊感情が低いと言える。
小谷委員	保護者が、自分の子どもを褒めることが少ないからではないか。
市村教育長職務代理者	新学校の評判はとても良く、子ども達には「いい学校で勉強しているのだ」という自信を持つことで、自尊感情を高めて欲しい。
山口町長	家庭でも褒められない、学校でも褒められることが少ないのではないかと。もっと先生が褒めてあげることが大事である。
谷委員	学校からの発信は大事である。能勢高校のニュースレターは広報と一緒にして配布したことで、かなりの人が、能勢高校を話題にしていた。学校からの情報発信は大きな役割を果たしており、地域は、学校や子どもの様子が分かる。地域の方々の声かけで、子ども達にも意欲が沸き、お互いに

	相乗効果がある。
小谷委員	「よくがんばったね」と声をかけやすい町が良い。声かけしやすい雰囲気作りが大切である。
山口町長	それが、自尊感情に影響していくだろう。
小谷委員	町全体が味方になってくれていると分かれば、子ども達はとても心強い。学校が一つになったことで、声をかけやすいような発信の仕方について考えていく必要があると思う。
上西委員	地域の人が参加しやすい催しや、子どもが活躍している姿を見てもらえるような学校行事を設けていただきたい。
森田教育長	もっと学校からの情報を発信していかねばならない。HPも夏休み中に立ち上げる予定で、各地区からの声もあり、オープンスクールは2学期から実施することになっている。1学期は、子ども達が落ち着いて授業を受けられる体制を整えることが優先であったため、2学期以降に地域の方との関わりをもっと増やしていけるような取り組みを進めていきたいと考えている。
市村教育長職務代理者	1学期に合唱コンクールがあったが、そのチラシがノセBOXの出入りに置いてあり、誰でも手に取れるようになっていて、当日は学校関係以外の一般の方も来られていた。このような機会が増えていけば良いと思う。まずは、私達をもっと学校の取り組みを発信していかねばならないと考える。
山口町長	それでは次に、授業スタンダードの取り組み状況について、教育委員会事務局より説明を求める。
辻課長	授業スタンダードとは、課題を掴み、自力解決し、班で学び合い、その日の学びを振り返る授業スタイルのことで、一昨年から新学校に向けての授業スタンダードを、5小学校・2中学校で取り組んできたが、各小中学校での取り組みを新学校へ引き継ぎ、新たな授業スタンダードとして4月からスタートしている。 しかし、各小中学校での取り組みを一つに束ねた授業スタイルを築くこ



とは、1学期中だけでは厳しい状況で、2学期へ引き継ぎながら段階的に進めたい。

新学校になり、バス通学等の環境の変化はあったが、子どもの生活リズムが整い、1学期は「時間を守る」ということを徹底した。2学期以降、小学校については本格的に課題を追求し、特に算数について研究を進めていきたい。

中学校については、評価議論を優先的に行っていたため、授業スタンダードについては不十分であったが、夏休み前からスクールエンパワーメント支援員を交えて教員研修を実施しており、2学期以降に授業スタンダード化を図っていきたいと考えている。

小・中・高等学校での校長会を月1回行っており、9年間と3年間をどのように繋げていくか議論されている中、本町の教育の在り方を考えながら授業をどのように展開していくかも考えていきたい。校長会については、今年度4回開催され、主に校長・教頭・能勢高校長、事務局を含め計9名が参加している。

山口町長

この件について何か意見・質問はないか。

小谷委員

授業スタンダードとは、「教員の教え方」という意味か。

辻課長

教員によって授業の進め方に違いが出ないように、1時間の授業の流れを基本的に揃えていこうとするものである。また、揃えることで子ども達にとって安心して学べる場となる。授業スタンダードは、大阪府でも推奨されており他府県でも取り組みが行われている。

小谷委員

昨年、旧小学校の授業見学で、先生によって板書の見せ方など授業の進め方に違いを感じた。少人数だから出来なかった教育、多人数になり出来る教育があるのではないか。ただし、新学校になり多人数による学習指導は、子ども一人一人に教員の目が行き届かず、学習のつまづきなどの見落としが出てくるのが懸念されるので、しっかりと対策を考えていかなくてはならない。

市村教育長職務代理者

学校訪問の際に、少人数であれば先生は、子ども一人一人に手厚く関わることが出来るが、かえって子どもが主体的に学ぶ力が育ちにくいのではと感じた。授業スタンダードは、教え込む授業ではなく子どもたちが自ら学びたいと思える授業の型であると聞き、自ら学び得た学力は、子どもの

将来に繋がっていくものである。

- 辻課長 教え込む授業から子どもが学びとる授業にするための方策を、全教員の間で共有し取り組みにあたっていかななくてはならない。
- 上西委員 各学校で取り組んできた授業スタンダードは、学年・クラスで統一しつつあるのか。
- 辻課長 授業スタンダードは、授業の流れを揃えていこうとするものであるため、教員によって学年・クラスで差がないように、ベテランの教員が若手の教員へ模範となって授業に入るなど、計画的に進めている状況であり、若手の教員育成はどの市町村でも課題となっている。
- 上西委員 同学年でもクラスによって宿題の量が違い、旧学校と違うので心配している保護者の声があった。2 学期以降は、クラス・学年で差が出ないように取り組んでほしい。
- 森田教育長 高学年になるに従って宿題については、先生から与えられるからするのではなく、自ら課題を見つけ勉強できるようにしていく必要がある。そのためにも、9 年間を見通したスタンダード化を図り、授業をどのように展開していくかも含めて、秋田県の小・中学校の取り組みを視察するなど研究に生かしていきたいと考える。
- 山口町長 同学年の担任同士が、授業づくりについて、もっと向き合い話し合うことが必要である。研修、研究、意見交換をしながら議論を重ね、日々実践していかなければならない。  
それでは次に、アフタースクールについて、教育委員会事務局より説明を求める。
- 瀬川次長 アフタースクール I では、小学生を対象に毎週火曜日と金曜日を自主学習と設定し、月曜日、木曜日を野外散策や物づくり、自然工作、理科実験等に充てている。毎週水曜日は児童館活動の日としていることから、水曜日のアフタースクールは実施していない。  
5 月の参加者数は延 642 人、6 月は 278 人の計 920 人で、内訳として自主学習の参加者は延 531 人、自然工作は 128 人、ものづくりは 105 人、野外ゲームは 84 人、野外散策は 61 人、理科実験が 11 人となっている。このア

アフタースクールⅠの実施に関わっていただいたボランティアの方々には延66人となっている。

次に中学生を対象としたアフタースクールⅡの「自立学習塾」の状況では、月額5,000円の受講料のほか、5教科分のテキスト代8,100円、アプリの利用料10ヶ月分として10,584円の実費負担が生じるが、44人が申し込み受講している。内訳は中学1年生が13人、2年生が14人、3年生が17人である。

なお、夏休み期間中については実施していない。

山口町長

アフタースクールⅠの状況はどうか。

辻課長

4月中旬頃に、5月のアフタースクール予定表を配布し、参加者の募集をした。立ち上げた5月は、人数制限を設けていなかったため、100名ほど集まったが、自然工作やものづくり教室では資材等の準備が必要であるため、6月と7月については、低学年と高学年で人数制限を設けて20～30名で活動した。

ボランティアの方々との調整会議を行い、2学期はテスト前でクラブのない日に体育館や運動場等施設を有効に利用し、サッカーや硬式テニスを実施していく予定である。学校行事の関係で単発の活動が中心であったが、今後は継続して行える活動も実施していきたいと考える。

山口町長

アフタースクールの活動内容について、種類は増えつつあるのか。

辻課長

種類は増えているが、ボランティアの方々には無理が出ないようなスケジュールを計画し調整している。

山口町長

この件について、何か意見・質問はないか。

市村教育長職務代理者

淨るりの導入についてはどうか。

辻課長

アフタースクールではなく、2学期からグローバル能勢（のせの地域学習）の中で取り組む予定である。授業で定着させて、今後、希望があればアフタースクールでも取り入れる構想もしている。

谷委員

対象学年と時間についてはどうか。

辻課長	対象学年は、小学6年生で約8~10時間設ける。子どもたちで演目を考え、語り、人形、囃子を組むような計画を考えている。
山口町長	夏休みにアフタースクールⅡを実施していない理由はなにか。家庭学習の習慣を身に付けることがアフタースクールの目的の一つであるが、実施しないのはなぜか。
辻課長	当初から業者との契約で夏休み中は実施しないことになっていたためだが、今後の課題として考えていきたい。
山口町長	アフタースクールⅡでは、1学期に一人延何時間学習したのか。
辻課長	延30時間である。
山口町長	学習成果が分かるようになっているか。
辻課長	アフタースクールⅡで利用しているスタディサプリは、自分で学習計画が立てられ、学習成果や進捗がすぐ確認できる。定期テストの結果から個別の学習進捗・状況等を把握するために懇談も実施している。
山口町長	受講者45人は徐々に増えていったのか。
辻課長	当初から45人の申込があり、保護者説明会でも関心が高かった。
市村教育長職務代理者	全員欠席することなく参加しているか。また、夏休みも活用するよう指導しているのか。
辻課長	全員出席している。夏休みも活用するように指導しており、新学校だからこそ出来るシステムであると感じる。現在、台数に限りがあるため受講者が増える場合は、曜日で調整する等対応していきたい。
上西委員	自立学習塾は保護者から好評である。自分で調べて学習が出来て、実際に期末テストの点数が上がったという声があった。
谷委員	保護者間のLINE利用率はどうか。保護者が夏休みの宿題の採点をしている学校があり、LINEで解答集が送信されることもある。SNSを利用するこ

とは、保護者間ですぐに情報が伝わりやすく、対応次第で学校不信にもなりやすい。時代に合わせた学校作りについても考えていかねばならない。

上西委員

スマートフォンを持っている保護者の多くは、LINE でクラス等のことを保護者間で共有し合うことが多い。メリット・デメリットの部分を含めて一気に内容等が広まりやすいので注意していかねばならない。

辻課長

情報モラルについては、保護者としての立場をわきまえながら SNS の使い方についても考えていく必要がある。

山口町長

何か意見・質問等はないか。

委員一同

(なしの声)

山口町長

ないようである。本日の会議はこれで終了とする。

なお、今後の総合教育会議については、必要に応じて開催することとする。これで本日の総合教育会議を閉会する。

(閉会 午後 4 時 46 分)

上記は、会議の経過（要旨）を記したものであり、これを証するためここに署名する。

委 員

委 員